

日本創傷・オストミー・失禁管理学会の事業について

石川県立看護大学
一般社団法人日本創傷・オストミー・失禁管理学会 理事長
紺家 千津子

私は日本創傷・オストミー・失禁管理学会（JWOCM）の理事長として、真田弘美元理事長と田中秀子前理事長が行った事業の一部に、排便の管理を新たに加え「エクセレントな排泄管理」の実現に向けた事業を推進しております。この排泄管理の中で生じる皮膚トラブルには、排泄物が皮膚に接触して生じるIAD（Incontinence Associated Dermatitis:失禁関連皮膚炎）があります。

JWOCMは、IADの対応策として、IAD-setの開発と、IAD-setに基づく「IADベストプラクティス」を刊行しております。IAD-setとは、皮膚の状態と付着する排泄物のタイプからIADをアセスメントでき、かつ重症度を数値化できるツールです。IADの管理は、褥瘡管理と同様に、多職種が皮膚の状態と重症度を共通して理解する必要があります。しかし、褥瘡のDESIGN-R®2020のようにIAD-setは広く使用されていません。

今後は、多職種の方々にIAD-setの周知啓発活動を行ってまいりますので、会員の皆様とも情報を共有する機会をいただき、ご使用くださいますようお願い申し上げます。

日本褥瘡学会

東北大学名誉教授（形成外科学）／赤石病院形成外科科長
一般社団法人日本褥瘡学会 理事長
館 正弘

日本褥瘡学会が多職種による横断的な学会として発足したのが1998年であり、およそ四半世紀がたった。2022年現在、会員数は約8000名であり、構成員の割合は看護師62%、医師20%、薬剤師9%、理学療法士・作業療法士5%などである。この学会は褥瘡に関する共通言語を確立し、定期的な全国実態調査やエビデンスに基づいたガイドラインの発刊等、多方面に積極的に活動し、褥瘡をエビデンスに基づいた学問体系に変革させた。かつては入院患者の4～9%に発生していた褥瘡であるが、2016年には1.8%と世界で最も少ない有病率を達成している。

褥瘡の予防・治療に中心的役割を果たしているアカデミアに所属する看護師の目は創傷治癒研究に向けられ、創傷治癒学会に加入する看護師は増加している。褥瘡はその発生原因の解明、急性期の褥瘡の病態、壊死性筋膜炎・骨髄炎などの急性の感染症を合併する事や慢性期に創面に発生するバイオフィルム形成等、創傷治癒研究の材料には事欠かない。アカデミアの看護師は創傷治癒研究において格調高い成果を上げてきており、ベッドサイドへの還元にも繋げている。



NEWS
LETTER

日本創傷治癒学会
2022.09
No.131

●日本創傷治癒学会事務局

〒160-8582

東京都新宿区信濃町35

慶應義塾大学

医学部形成外科学教室内

tel.03-3351-4774

fax.03-3352-1054

e-mail : info@jswh.com

URL : <https://www.jswh.com>

日本フットケア・足病医学会から

神戸大学大学院医学研究科形成外科学
一般社団法人日本フットケア・足病医学会 理事長
寺師 浩人

日本創傷治癒学会のみなさま

当学会の評議員を拝命しております神戸大学大学院医学研究科形成外科学教授の寺師浩人（てらしひろと）と申します。日本創傷治癒学会では、研究会の頃である昭和の時代からの会員として長く勉強させていただいてきました。心よりお礼申し上げます。

現在、わたしは日本フットケア・足病医学会の理事長を拝命しています。本学会は、2019年（令和元年）に日本フットケア学会と日本下肢救済・足病学会の二つの一般社団法人が合併して誕生した比較的新しい学会ですが、会員数は飛躍的に増加し5000名を超える大きな組織へと成長しています。我が国は超高齢化社会を迎え、高血圧、糖尿病、動脈硬化（PADを含む）や透析等のために多くの「足病」患者を有しています。本学会は、ヒトとしての尊厳である「歩行」が脅かされている現代社会の課題に向き合い、日本人の「歩行を守り、生活を護る」ことに多診療科、看護師、介護士、理学療法士、義肢装具士、作業療法士、医工学の面々が集う雑多な集団です。わたしは、理事長として「PODIATRY Project」を立ち上げ（<https://jfcpm.org/outline.html#greeting>）、これからも学会員一丸となって「足病」に対峙していきたい所存です。本年9月には、世界でも稀な、多診療科と多職種からなる「重症化予防のための足病診療ガイドライン」も上梓いたしました。これからもどうぞ宜しくお願い申し上げます。（2022年8月）

日本創傷外科学会からご挨拶

徳島大学形成外科
一般社団法人日本創傷外科学会 理事長
橋本 一郎

この度、日本創傷外科学会の理事長を拝命いたしました徳島大学形成外科の橋本一郎です。日本創傷外科学会と日本創傷治癒学会は対象となる疾患や研究テーマが深く関連しており、ご挨拶させていただくことをたいへん光栄に存じます。

さて、新型コロナウイルス感染症は学術集会のあり方や学会運営に大きな影響を及ぼしました。学術集会は現地開催に何らかのWEB開催を加えたハイブリッド開催が当たり前になりました。日常の診療においても、オンライン診療や遠隔診療への取り組みが本格的になっています。ピンチはチャンスであり、これらの環境の変化は間違いなく、各領域での進歩につながるでしょう。

創傷治癒や創傷外科に関する治療方法にも顕著な進展が見られます。創傷被覆材や陰圧閉鎖療法はすでにスタンダードなものとして定着しています。デブリードマンに関しては、水圧洗浄や超音波洗浄などのデバイスが登場しました。そして、創面に適応される機器や材料でも、生体由来のものも含めて、新しいものが提供されはじめています。これらを上手く活用して、さらに発展させるためには今まで以上に、臨床的・基礎的研究が必要です。2つの学会が情報の共有や交換を行いながら、共に創傷治療に寄与できることを期待しております。

※執筆者の氏名五十音順に掲載

WRRに会員の論文が掲載されました

会員の論文が Wound Repair and Regeneration の Volume30 Issue No.4 に掲載されました。論文名、会員の著者は下記の通りです。

投稿規程に関しましては、Wiley Online Library の本ジャーナルホームページの機関誌概要下にある濃緑色のナビゲーションバーより、<CONTRIBUTE> ⇒ <Author Guidelines> と進んでいただくか、以下の URL へアクセスして入手してください。

<https://onlinelibrary.wiley.com/page/journal/1524475x/homepage/forauthors.html>

なお、投稿方法は、ホームページからのオンライン投稿（要ログイン）となっております。

“Incidence of and risk factors for self-load-related and medical device-related pressure injuries in critically ill patients: A prospective observational cohort study”, (*Wound Repair and Regeneration* , 30:4, P.453 – 467)

- 仲上 豪二郎 先生 (東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻 創傷看護学分野)
小川 令 先生 (日本医科大学 形成外科)
小野 真平 先生 (日本医科大学 形成外科)
須釜 淳子 先生 (藤田医科大学研究推進本部 社会実装看護創成研究センター)
真田 弘美 先生 (石川県立看護大学 学長)
大江 真琴 先生 (金沢大学 医薬保健研究域保健学系)



漢方は、自然から。

漢方は、たくさんの人の手と想いを経て生まれます。

長い年月をかけて、樹木が豊かな山を育み、その山で水が蓄えられる。

山で磨かれた水が、生薬をつくるための畑に注がれ、
生産農家のみなさんによって大切に育てられる。

人が本来持っている自然治癒力を高め、生きる力を引き出すことを目的とした
漢方にとって、「自然」はいのちを強くする力そのものです。

その力をそこなうことなく、すべての人が受け取れる形にして届けたい。
そして健康に役立ててほしい。

100年以上、自然と向き合いつづけてきた私たちツムラの願いです。

自然と健康を科学する。漢方のツムラです。

 www.tsumura.co.jp

資料請求・お問い合わせは、お客様相談窓口まで。
【医療関係者の皆様】 0120-329-970 【患者様・一般のお客様】 0120-329-930
受付時間 9:00～17:30 (土・日・祝日は除く)

(2019年5月制作) RSCAB01-D